

有識者意見の概要及び意見に対する見解

1. 調査研究課題名 公共投資の経済効果を計測するマクロ経済モデルの構築	
2. 有識者意見の概要及び見解 有識者：上田 晃三氏 (早稲田大学政治経済学術院 教授) 江口 允崇氏 (駒澤大学経済学部 准教授) 廣瀬 康生氏 (慶應義塾大学経済学部 教授)	
意見の概要	意見に対する見解
<ul style="list-style-type: none"> 公共投資の経済効果を計測するモデルを構築するにあたって非分離型の効用関数を採用した理由は何か。 	<ul style="list-style-type: none"> 消費をクラウドインさせるような効用関数がないかを調べるため。
<ul style="list-style-type: none"> 家計消費のクラウドインを実現する改良として粘着的な賃金 (sticky wage) を導入する方法もある。 	<ul style="list-style-type: none"> 報告書に今後の課題として記載した。
<ul style="list-style-type: none"> 標準モデルに様々な摩擦を同時に考慮しているが、これらの取り組みを正当化するためには、先行研究のモデルと比較してフィットが増しているかどうかを確認するとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 報告書に今後の課題としてパラメータの推定によるモデルの妥当性検証を記載した。
<ul style="list-style-type: none"> VAR に民間投資を含めないのはなぜか。 	<ul style="list-style-type: none"> 本研究における VAR の関心が、政府支出による消費のクラウドインをデータで確認することであり、採用した 3 変数 VAR でその目的を十分達成できるため。
<ul style="list-style-type: none"> VAR では様々な推計をやるべき。同じような結果が得られれば結果が頑健であると判断できる。 	<ul style="list-style-type: none"> アドバイスを参考に、2 種類の VAR を行い、いずれも消費のクラウドインがあることを確認した。